

今日も私は世界の笑顔を守るヒーロー

和洋学園和洋九段女子中学校3年 横野 陽咲

小学二年生の時、総合の授業でケニアに住んでいる六歳の男の子の動画を見た。その子は、三歳の頃から重い病気を患っているが治療をするお金がなく、自分で毎日必死に働いてお金を集めているという動画だった。その子は、動画の最後に悲しそうな顔で「治療がまともにできていないから、自分がいつこの世から消えるかわからない。」と言っていた。私はその動画で初めて子どもが働かないと生きていけない国があるのだと知り、衝撃を受けた。

そこから、私は「世界中の子どもが笑顔で生きてほしい」という思いを持ち、毎年一、二回ドナルドマクドナルドハウスのボランティアをするようになった。ドナルドマクドナルドハウスは重い病気の子どもの家族が利用できる滞在施設で、そこで病気を患っている子どもの家族と実際にお話をして更に私の思いは強くなり、他のボランティアにも挑戦してみたいと思うようになった。しかし、新型コロナの緊急事態宣言の影響で私の生活は縛られ、ボランティアはできなくなった。

そこから約三年、中学三年生になった私は小学生の時の思いを秘めながらSDGsの活動をするようになった。学校でSDGsの講習を設けて発表したり、SDGsの活動をしている企業に訪問をしてお話を聞いたり、私は本気で世界と向き合うようになった。しかし、まだ中学生の私の力ではどんなに頑張っても、全てにお金のお話がからみ込んでなかなか次の大きなステップに踏み出せなかった。

そんなある日、二〇三〇年までに消費税が十五%に引き上がる可能性があるというニュースを見た。私が生まれた時は消費税は五%だったのに、今は十%。まだアルバイトができない私にとってお小遣いで買った物に消費税が十%つくのはかなり重く、今まで何回も消費税があることを恨んだ。そのニュースをきっかけに私は苛立ちを覚えながらも、消費税が何に使われているのかを調べてみた。国の消費税は主に医療や少子化対策の費用にあてたり、一部は政府開発援助という苦しんでいる人たちが多くいる国を助けるために、病院をつくったり、病院で使う薬や注射器などを送るための活動に使われているようだ。使い道は国内だけだと思い込んでいたが、実際は消費税は私が願っている「世界中の子どもが笑顔で生きてほしい」という思いに関係していたのだ。次のステップを踏み出す以前に、SDGsの活動をしているのにも関わらず、今まで苛立ちながら消費税を払っていた自分が恥ずかしくなった。

私は子ども、大人関係なく誰もが平等に社会で輝けると思っている。これを読んでいるあなたも、きっと私のように一度は税金があることに腹が立ったことがあるだろう。しかし、私達が払っている税金は国内や世界を支えていくために必要不可欠だ。つまり、誰でも地球を救うヒーローになれるのだ。